

未来をつなぐバトン

私は以前、一時保護所で生活していたことがあります。そこは家庭の事情などで安心して暮らせない子供が一時的に守られる場所です。慣れない環境に不安もありましたが、温かいご飯、勉強の時間、優しく声をかけてくれる職員さんたちに支えられ、私は安心して過ごすことができました。今振り返ると、あの場所があったからこそ、私は心を取り戻し前に進むことができたのだと思います。しかし、一時保護所は自然に存在している訳ではありません。建物や食事、生活に必要なもの、そして働く職員さんたちのお給料は、すべて社会から集められた税金によって支えられています。納められた税金が私のように助けを必要とする子供を守り、安心できる場を作っているのです。私はその仕組みを知ったとき心から「ありがとう」と思いました。同時に、私は気づきました。税金は私のためだけではなく、同じように困っている子供や、大人たちも支えているということに。病気になった人の治療費を助けたり、災害で家を失った人に支援を届けたり、学校や道路を整えたり、社会のあらゆる場面で誰かの暮らしを守っています。目に見える形だけではなく、一時保護所のように普段は意識されにくい場所でも、確かに税は力も発揮しているのです。私は、自分がその恩恵を受けたことで、社会全体がひとつにつながっていることを実感しました。私を守ってくれた税金は、どこか遠くで暮らす誰かが納めたものかもしれません。そして、私が元気に生きていくことは、また別の誰かの支えになるかもしれません。税はただお金でなく、人と人をつなぐ「思いやりの形」だと感じるようになりました。もし、税金がなかったら、私は安心できる場所を持てなかったでしょう。心が追い込まれ、未来を信じることさえできなかったかもしれません。けれど、税金によって成り立つ仕組みのおかげで、私は守られ、再び歩き出す力をもらいました。税金は、命を支える見えない大きな手のような存在なのだと強く思います。これから私は大人になり、働いて税を納める立場になります。そのとき、私は迷わずその役割を果たしたいです。なぜなら、それが「過去の私」を救ってくれたように、未来の誰かを守ることにつながるからです。税を納めることは義務であるだけではなく、社会に「ありがとう」を返す方法だと思います。私は過去の誰かが納めてくれたから、今の私が助かりました。そして、これから私が納める税はまだ見ぬ誰かの希望になるはずです。そう考えると、税金は世代を超えて未来をつなぐバトンのように思えます。安心できる暮しや、学ぶ環境、困ったときの支えは途切れずに受け渡されたからこそ存在しているのです。私はこれからもあの一時保護所での経験を胸に、税の意味を忘れず、未来の誰かに安心と希望を届ける大人になりたいです。